


地域自主防犯活動活発化事業

実施結果報告書

1 団体名	赤松町内会
2 事業名	「犯罪のないまち、赤松町」
3 事業実施結果	<p>当町内会区域は、主要地方道が縦横に走り、国道 23 号バイパスからも至近であるほか、市斎苑等の公共施設に加え安城産業文化公園デンパークが所在するなど、他の地域からの人・車の流入は非常に多い。</p> <p>また犯罪については、自動車関連の窃盗や侵入盗被害が慢性的に発生しており、上記地理的特性からも、これら被害の更なる発生が強く懸念される。</p> <p>本年度、安城市より市条例に基づく犯罪抑止モデル地区に指定されたことを契機に、「犯罪のないまち、赤松町」を実現すべく、市、警察及び地縁団体等と連携し、区域一丸となって各種自主防犯活動に取り組んだ。</p> <p>1. 防犯パトロール活動の活発化（A 事業）</p> <p>赤松町防犯パトロール隊は 2003 年に徒歩パト隊として結成、2022 年 10 月からは新たに青パト車による防犯パトロールを開始し、隊員による徒歩パトロール（月 2 回）、青パト車による防犯パトロール（週 1 回）、小学生の登下校の見守り活動（毎日）を実施しているが、隊の更なる活性化と活動の持続化のため、活動状況の周知と参加を呼びかける隊報「赤松パトロールつうしん」を創刊し、全戸回覧を行った。</p> <p>また、毎月発行の町内会だよりでも各月実施したキャンペーンなど自主防犯活動を取り上げ、住民への啓発と活動の周知を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 隊報「赤松パトロールつうしん」 → 創刊号（9 月）、第 2 号（12 月） ・ 「赤松町内会だより」掲載 → 5 月、6 月、8 月、11 月及び 2024 年 1 月号 <div data-bbox="603 1912 1104 1984" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「赤松パトロールつうしん」創刊号</p> </div> 

2. 時機を捉えた防犯啓発活動（B事業）

（1）夏季の連れ去り被害防止に係る啓発活動の実施

8月の安城七夕まつりに因み、町内保育園児を対象に「連れ去り防止標語入り短冊」への願いごとの書き入れと同まつり会場での掲示を行ったほか、町内夏祭りでは連れ去り防止の合言葉「つきおに」を配したアクティビティ「ぼうはんストラックアウト」を設置、多くの児童に遊戯しながら連れ去り対策を学んでもらうことができた。

赤松保育園での防犯短冊作成



「ぼうはんストラックアウト」



（2）「なつやすみ かぎかけスタンプラリー」の開催

児童や保護者への鍵かけ習慣の定着を図るため、町内居住の小学生以下の児童を対象に、夏休み期間中、自宅の鍵かけや施錠確認を促す「なつやすみかぎかけスタンプラリー」を開催した。

5日間の実施をもってラリー達成とし、児童向けの景品を用意したほか、菓子のつかみ取りができる「とくべつひきかえ会」を開催したところ、大変な活況となった。

スタンプカード



「とくべつひきかえ会」の様子

(3) ホームセンターとの侵入盗対策キャンペーンの実施 (兼・C事業)

町内で空き巣被害が発生したことを受け、町内のホームセンター「DCM安城赤松店」と協働して、①「防犯砂利等の侵入盗対策用具の体験キャンペーン」、②「黒づくめ犯人の等身大パネルを置いた防犯用具特設販売コーナーでの、市の防犯用具購入費補助制度(10月開始)を活用した侵入盗対策キャンペーン」の計2回を実施、来店客に早期対策を呼びかけた。なおその後、特設コーナー設置やチラシ配付等の店内啓発は市内DCM各店でも行われることとなった。



ホームセンターとの侵入盗対策キャンペーン

(4) JAまつりでの侵入盗等対策キャンペーンの実施

町内のJAあいち中央総合センターで開催された「JAまつり」の来場客に対し、当町を始め市内における侵入盗の発生状況や対策に関するチラシ・啓発品を配りながら、市の防犯用具購入費補助制度を活用しての早期の侵入盗等対策を呼びかける防犯キャンペーンを行った。



JAまつりでの侵入盗等対策キャンペーン

(5) 高齢者への各啓発の実施

敬老のお祝い品に合わせ、町内の高齢者255人に対し、補助錠や特殊詐欺への注意を促す啓発プレート(A5大・電話機又は周辺に取り付け可)を配付、空き巣への対策と特殊詐欺への注意を呼びかけた。

配付した防犯用具セット



また、安城署より、同署作成に係る特殊詐欺犯人を撃退するためのシールを受領したことから、町内の高齢者宅を訪問し、玄関先への貼付を呼びかける「特殊詐欺受け子撃退シール貼付作戦」を実施した。



「特殊詐欺受け子撃退シール貼付作戦」

このほか、コロナ禍以来の開催となる町内芸能祭にて、高齢者を対象に特殊詐欺や空き巣、強盗被害に遭わないための防犯講座を開催、「防犯の4原則」やガラス割り防止フィルムの効果的な貼付方法など、具体的な対策について学んでいただいた。



赤松町内芸能祭での防犯講座

3. 地元団体等と連携した町内ぐるみの地域安全活動（C事業）

(1) 「ふれあい田んぼアート2023」会場での防犯啓発

当町所在の安城産業文化公園デンパーク横にて開催される「ふれあい田んぼアート2023」では、「防犯」をテーマとするデザインが採用され、多数の町民も5月の「田植え」、7月の「鑑賞」及び9月の「稲刈り」に参加、農業体験をしながら、「どうする防犯」と防犯対策について考えるきっかけとすることができた。

また各回会場で防犯キャンペーンを実施、特に9月「稲刈り式」会場で開催した防犯クイズ大会では、協働した安城農林高校謹製のジャム等景品の人気も手伝い、家族連れなど多くの来場者が参加、空き巣や自動車盗対策についてクイズを解きながら学んでいただくことができた。



会場での防犯クイズ大会



※ ふれあい田んぼアートは、市内農家による実行委員会が主催。大河ドラマ「どうする家康」にちなみ、「どうする防犯」の文言と、家康公に扮した市マスコット「サルビー」、警察の旭日章及びパトカーカラーがデザイン化された。

「どうする防犯」をテーマとした田んぼアート

(2) 「ふれあい防犯ウォークラリー」の開催（兼・D事業）

町内住民を対象に、防犯について学びながら町内を巡る「ふれあい防犯ウォークラリー」を開催した。225人の参加者は、「みんなでまもろう赤松町！」とデザインした特製の缶バッジを身に付け、互いにあいさつを交わし30分程度のルート歩きながら、町内にある「防犯上の要注意箇所」や「こども110番の家」について確認した。



おそろいの特製缶バッジで連帯感↑



「ふれあい防犯ウォークラリー」の様子

(3) 営農組合車両への地域安全マグネットシートの貼付

日頃農作業等で町内を通行する営農組合の農作業車に「地域安全パトロール中」のマグネットシートの貼付を依頼、「地域の連帯感」と、ながらパトロールによる「地域の目」の強化を図った。



営農車両の「地域の目」化

(4) 犯罪防止環境の整備 (E事業)

4月に実施した「まちの防犯診断」(防犯設備士、警察、市及び町内会による、防犯上の危険箇所の点検)の結果を踏まえ、町内全戸に配付した看板「防犯プレート」の各戸掲示や、児童公園、コミュニティセンター及び集落の入り口となる箇所への地域安全横断幕の設置並びに市への防犯灯の増設要望を行い、町内の犯罪防止環境を整備した。



4 成果と課題
及び今後の
取組み

(1) 事業実施の成果及び課題

1. 成果

①犯罪認知件数の減少

県内各地で犯罪の認知件数が増加傾向にある中、町内における令和5年中の同件数は前年同期と比べて10%減(注:R5.11末・速報値)であり、「犯罪のないまち、赤松町」の実現に向けて一定の成果を挙げることができた。

②防犯パトロール活動への理解

パトロール隊報の創刊と町内回覧により、多くの町民に隊の存在や活動が周知、理解され、町民から積極的に犯罪情報が寄せられるようになったほか、隊員への労いの言葉をいただく場面も増え、隊員のモチベーション向上と隊活動の活性化につながった。

③防犯環境の改善

全戸配付した防犯プレートは町内のほとんどの世帯で掲示されたほか、特殊詐欺受け子撃退シールや防犯用具についても多くの高齢者宅で活用され、地域安全横断幕の要所への設置や市によるLED防犯灯の増設等とも併せ、町内の防犯環境の改善に大きく寄与した。

④防犯意識の高揚

防犯キャンペーン等の各活動は新聞や地元ケーブルテレビで度々報道され、諸活動の実施と相まって町内全体での防犯意識の高揚につながったほか、広く市内外に「赤松町は防犯意識の高いまち」であることを発信

できた。

2. 課題

①侵入盗等対策の継続

犯罪の総数こそ減少したものの、町内では空き巣・自動車盗共に被害が発生していることから、引続き、町民への啓発や防犯環境の改善等の対策を行っていく必要がある。

②コミュニティ外の町民への働きかけ

町内には高齢者の居住も多く、また老人会に属していない（コミュニティ外にある）方が散見される。町内会未加入者（主に若年層）と同様地域との接点が少ない町民への効果的な働きかけ方を模索しなければならない。

③持続化に向けた担い手の確保

町内会活動全般にも言えるが、防犯活動を持続していくためには、「担い手の確保」が依然として大きな課題である。

3. 今後の取組み

上記課題を踏まえ、町内行事等に併せた啓発や情報発信を行うなど、引き続き市・警察・地元団体と協働しつつ、町内における自主防犯活動の活発化と持続化に取り組みたい。